

母親部会茶話会

4月27日(日)、いわき病院いこいの家(参加者20名)、5月18日(日)、福島病院(参加者13名)、それぞれ親の会総会終了後に茶話会を開催しました。参加者から、病院へ対する要望や思いなどが話されました。



【いわき病院】

1. 病棟内に貼られていた病院スタッフの写真と名前の表がなくなっている。職員の方々の名前と顔がわからないので、再掲載してほしい。
2. 受け持ち看護師さんの名前をベッドにつけてほしい。
3. 子どもたちが使っている木製の衣類収納箱がささくれて、衣類の出し入れ時に引っかかって破れてしまうので新しいものに交換してほしい。
4. 機能訓練士の方が以前と比べよく来てくれてよいと思う。
5. 重症児病棟廊下に保育士さん達が作ってくれた、想像力を膨らませるファンタスティックなモビールが飾られており、とても楽しい気分になる。

【福島病院】

1. 後見事務に特に問題がないのに、年齢(高齢)だけで後見人を外される人がいる。
2. 新築により、車いす専用室、病室も広くベッドのそばに車いすを置くスペースもありとても良い。
3. ナースステーションには、先生方、看護師、助手さん等病院スタッフの名前と写真が表に出ている。
4. 窓からの景色が殺風景な部屋があるので、これからの課題である。
5. 広く明るい病棟なので満足している。



いずれの病院でも保育士さんが不足している悩みが出されました。

また、いわき病院では、母親部会で出された意見をもとに病院と親の会で話し合いを持ち、衣類ケースについては順次更新していくことの回答をいただきましたが、病院スタッフの顔写真の掲載については、いろいろな問題がありできないが氏名のみは掲示しますとの回答を得ています。また、ベッドサイドには受け持ち看護師さんの氏名を掲示することとなりました。

今回は、同じ施設利用者の保護者の方を対象に話し合いの機会を持ちましたが、今後は、国立施設だけでなく、公法人立施設利用者の保護者の方や在宅の方も含めた意見交換の場として開催していければと思います。

【編集後記】実りの秋、頭を垂れる稲穂を見つめ収穫の喜びを感じる季節であるが、いら立ちをぶつける矛先が見つからない。もち米を作付した水田15aの3分の1が完全に倒され収穫の見込みがない。イノシシの仕業である。震災発生の前年まではイノシシなど見かけることがなかった。震災発生の秋、初めて水田にイノシシの足跡を確認したが、特に被害はなかった。翌年、水田の一部が倒されていた、被害としてはさほどではなかった。3年目の秋、明らかに前年より広い面積が倒されていた。しかし、まだ被害は1枚の水田のみであった。今年、もち米を作付した水田を含め5枚の水田が被害にあった。庭に植えていたカサブランカの球根も根こそぎ食べられてなくなりました。原発事故直後、イノシシの肉から高濃度の放射能が検出され食用に適さなくなったことから、狩猟者が一気に減ったことが要因である。一般的にイノシシは、一度に4頭の子を産み、そのうち3頭が雌であるとのこと。しかも、最近では早熟で2年目には子を産むそうで先が見えない。

絆 ~きずな~

2014年11月1日 第4号

発行責任者：会長 齋藤秋雄

福島県重症心身障害児(者)を守る会

結成50周年

今年の全国大会は、結成50周年を迎えた大会で、これまでの大会とは少し趣が違っていました。

これまでも、5年ごとに開催する記念大会は、重症児(者)へ関わりを持ち、たくさんの手を差し伸べていただいている方々へ感謝を表す大会でありましたが、50周年という節目である今年は、ほんのささやかではありますが、感謝の気持ちを形に表すべく、感謝状の贈呈がありました。

感謝状を贈られた方々については、すでに「両親の集い」で報告されているとおります。

あらためて、子どもたちがたくさんの方々の優しさや愛情で守られていることを感じ取ることができました。



原点を見つめなおそう

福島県守る会会長 齋藤秋雄

こんにちは!会長の齋藤です。

早いもので就任してから5年が経過しました。念願であった広報誌(絆)の発行も今回で4回目を迎えます。今後は、会員の皆様の現況や意見などを掲載したいので皆様のご投稿をお待ちしております。

さて、今年、全国重症心身障害児(者)を守る会が創立して50年。6月9日に天皇、皇后両陛下のご臨席のもと、約1200人が参加し、記念式典が開催されました。

会は福祉施策が何もなく昭和39年に結成されましたが、当時の国の考え方は「社会の役に立たない者にお金は使えない。」と言う冷たいものでした。そのような環境の中で、北浦会長をはじめ会員の方々が「最も弱いものをひとりももれなく守る」を合い言葉に粘り強く運動を展開し、現在に至っています。

このかげには多くの方々の支援があった訳ですが、記念大会ではそれらの方々に感謝状を贈呈し、会員の感謝の意を伝えました。

「親の会」とせず「守る会」としたのは、親だけではなく多くの方々の支援を頂き、重症児・者を守っていくこととしたためです。

現在は、福祉施策も充実して「運動をしなくても何とかかなるのでは」と考えている人も多いかと思えます。特に会に加入されていない方々はこのように考えているのではないのでしょうか。しかし、重症児・者の実態を知っているのはまだまだ少数です。私たちが団結して運動していかなければ、改善されることはありません。「継続は力なり。また、数も力です」。

今後は、会員1人1人が創設当時の親の思いを胸に運動を進めていくとともに多くの仲間が参加してくれるよう働きかけていこうではありませんか。

合掌



守る会創立 50 周年記念大会へ参加して

平成 26 年 6 月 8 日(日)～9 日(月)

グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール

福島病院 齋藤静子



守る会創立 50 周年記念式典に参加する機会をいただき、北浦会長さんが宣言された、「最も弱いものをひとりももれなく守る」との力強い声に心強さを感じました。

天皇皇后両陛下のお姿をまじかに拝顔し、何時までもお元気でと心で祈りつつ、お二人のな

にげなくそっと手を差し延べられるお姿に、自分の心が暖かくなっているのを感じると同時に、子どもの頃、母が台所で仕事をしながら口ずさんでいた歌を思い出しておりました。

陛下がお生まれになられた時のお歌で、「日の出だ日の出に 鳴ったポッポサイレンランランゴ夜明けの鐘まで 天皇陛下お慶び 皆々相手 カアサマ ウレシ 皇太子サマ オウマレナッタ」

全国民が陛下の誕生を慶び祝ったとの事、目の前におられる陛下のお姿、今は亡き母を思い出して、昭和ひとけたの自分、これからどれだけお返しができるか、自分なりに頑張っていくつもりです。

専門部会総会（東北ブロック）

【国立施設部会】

いわき病院 渡辺 昶

国立施設部会総会が、6 月 21 日宮城県の JR 仙台駅前にあるヒューモスファ イブ 8 階にて開催されました。

いわき病院翠ヶ丘親の会からは、会長が都合により出席できないことから、副会長の渡辺と会計の安齋で出席してきました、

総会にあたり前もってアンケートの提出が必要で、会長より、いわき病院の概要、職員の配置状況、親の会から国立病院機構に対しての要望事項 3 項目が事務局に提出されていました。3 項目の要望は 1. いわき病院新築移転にあたっては、早期着工と完成をお願いします 2. 重症児病棟については、設計段階から利用者(親の会)の意見反映をお願いします 3. 面会室の充実をお願いします。(例 山形病院の面会室程度)が提出されていました。

私が国立施設部会総会に出席するのは 2 度目で、他施設の出席者ともあまり面識もなく総会全体を把握するのに苦慮しました。総会事務局へのお願いとし、各県施設親の会より各病院に対し、アンケートにて要望事項が掲げられていると思いますが、事務局で確認するだけでなく要望事項を一覧表にまとめていただき、総会出席者に配布することにより、他施設親の会の要望等を確認し共有できる

と思います。前回総会まではどの様に行われていたのか分かりませんが、一つの案として要望いたします。

【在宅部会】

在宅部会担当 富岡 靖

在宅部会及び母親部会総会は、7 月 25 日(金)宮城県重症心身障害児(者)を守る会事務所において開催されました。

在宅部会へは、3 県支部 4 名の参加で、福島県支部からは在宅会員の五十嵐と私の 2 名が出席しました。

各県支部から一年間の活動報告を受けた後、平成 26 年度に在宅者を対象に予定している行事について、・全国守る会主催の交流キャンプ(青森県：浅虫温泉)・県全体の活動はないが、盛岡地区の学齢期を持つ親たちが活発に活動している(岩手県)・心いきいき芸術祭、バザー出店、クリスマス会、成人式(秋田県)・部会としての活動はない(山形県)・在宅児(者)親子交流会(宮城県/10 月中旬)・全国守る会主催巡回療育相談(福島県/11 月)、などが報告されました。

また、在宅生活で欠かすことができないショートステイについては、

- ・安心して預けられない、親が元気なうちは頑張る
- ・利用したいときに利用できない(断られる)
- ・家では、時間はかかるが普通に食事をとっているのに利用時には経管になってしまう
- ・病院を利用して体調が悪くなると呼び出されてしまう(院内感染になるからとの理由)など様々な問題が出されました。

各県の福祉サービスについては、思った以上に地域間格差があることが、感じられました。住んでいる地域によって差がある福祉サービスの差を埋めていく活動が今後求められます。

【母親部会】

母親部会長 安斉律子

母親部会総会は、5 県支部 5 名の参加により開催されました。

運動の原点に帰ることを趣旨として、北浦雅子会長の強い思いの中で設立された部会であることを再認識し、これからも、子どもとのつながりが一番強い母親が運動の先頭に立つことを確認した総会でした。



東北ブロック大会

第一分科会に参加して 在宅 五十嵐真由美

第一分科会では、講師・アドバイザーにインクルふじの小林不二也氏、相談支援センターありのまま舎の齋藤栄樹氏、ピーススマイルなのはな相談支援専門員の遠山裕湖氏をお招きして、「知ろう！地域で生きる・重症心身障害者のグループホームとは?・相談支援事業とは?」というテーマで話し合いが行われました。



新しい制度である相談支援事業を活用しながら、重症心身障害者もその人らしい地域生活を実現していきましょう。そして、これからの時代は個人に目が行き届き易い、小規模で家庭的なグループホームやショートステイへ、期待が向けられていることを確認した分科会となりました。

新しい制度である相談支援事業を活用しながら、重症心身障害者もその人らしい地域生活を実現していきましょう。そして、これからの時代は個人に目が行き届き易い、小規模で家庭的なグループホームやショートステイへ、期待が向けられていることを確認した分科会となりました。

